

(別紙様式=小学校用)

都道府県番号	43
都道府県名	熊本県

【 ① ② ③ 】
 *重点をおいた観点にチェックすること

I 学校名及び規模

学校名	山鹿市立大道小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	2	2	2	2	0	11	20
児童数	39	40	52	41	47	51	0	270	

II 研究の概要

(1) 研究主題

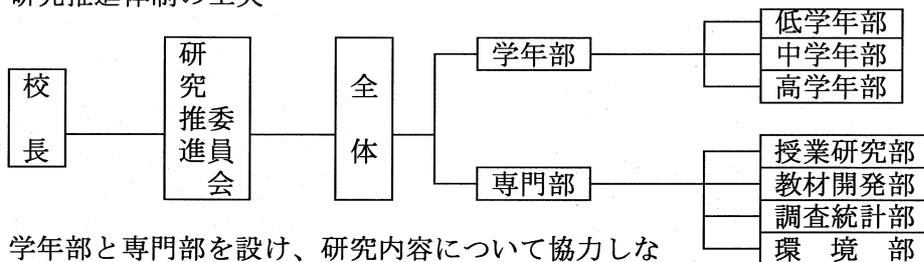
個に応じた確かな学力の定着を図る学習をめざして
 ～算数科における少人数指導を中心に～

(2) 研究主題設定の趣旨

新学習指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上をめざすために、一人一人の実態に応じた学習の工夫と日々の授業の改善を図る必要がある。
 また、昨年度2月に実施した学力検査（NRT）の結果は、6割以上の児童に上位群としての学力が認められた。算数科においても全学年、全領域において標準を上回る正答率が得られ、平成13年度の標準学力偏差からさらに1.3ポイントの向上が見られた。しかし、これは集団としての平均であり、一人一人の児童の学力を詳しく分析すると、さらに伸ばせる子や個別指導が必要な子があり、個に応じた指導が十分でない面があった。
 以上のことから、一人一人の児童の実態に応じた学習の工夫改善を行い、確かな学力の定着を図ることをめざして研究主題を設定した。

III 研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



学年部と専門部を設け、研究内容について協力しながら、主体的に取り組めるようにした。

(2) 研究の実際

① 個に応じた指導形態・指導方法の工夫

本校では、指導形態・指導方法を次のように定義した。

「指導形態」とは、学習集団を量的にとらえたものであり、「指導方法」とは、学習集団を質的にとらえたものと考えた。

【質の面】(指導方法)

- OTT指導
- 均等分割指導
- 学習方法別指導
- 習熟度別指導
- 課題選択型指導

【量の面】(指導形態)

- 学級単位 (従来)
 - 学級2分割
 - 学年3解体
 - 学年合同・・・
-) 少人数指導
-) 多人数指導

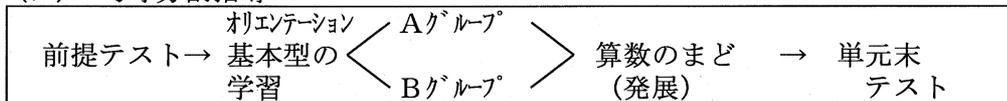
ア 指導方法の用語の定義

- TT指導 : 集団を主たる指導を行う教師と学習につまずいたり、遅れがちな児童へ対応する教師の複数で指導にあたる。
- 均等分割指導 : 集団をグループ間が均等になるように分け、教師一人あたりの児童数を少なくして、よりきめ細かな指導ができるようにする。グループ編成は、データを参考にして行う。
- 学習方法別指導 : 学習の進め方について児童が自分にあった学習方法を選び、教師はその指導や支援にあたる。
- 習熟度別指導 : 単元の指導目標に対する到達度に応じて、補充的な学習や発展的な学習を行い、全員に基礎・基本を確実に定着させる。
- 課題選択型指導 : 単元の中で学習する内容の順序を選択して学習する。または、発展的な学習で、複数の課題の中から選択して学習する。

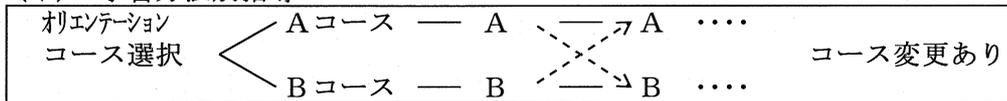
《学習方法別》		《習熟度別・単元内》		《習熟度別・単元末》	
自力解決	教師支援	十分	不十分	自力解決	教師支援
自 力	支 援	本時の基礎・ ----- 基本	本時の基礎・ ----- 基本	発展問題	補充問題 ・ 発展問題
習熟	習熟	習熟・発展	習熟	評価	評価
評価	評価	評価	評価		

イ 指導方法ごとの学習過程

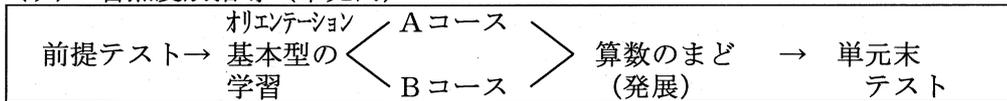
(ア) 均等分割指導



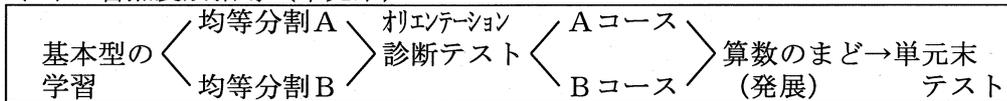
(イ) 学習方法別指導



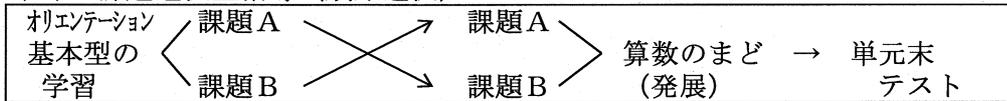
(ウ) 習熟度別指導 (単元内)



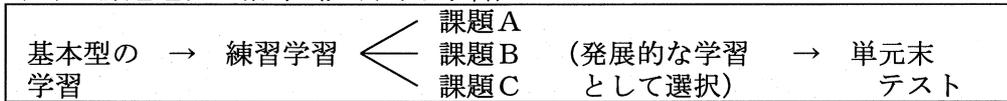
(エ) 習熟度別指導 (単元末)



(オ) 課題選択型指導 (順序選択)

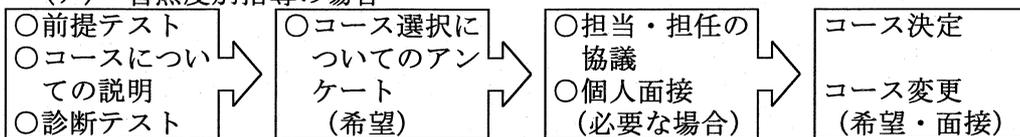


(カ) 課題選択型指導 (発展的な学習)



ウ コース選択までの手順

(ア) 習熟度別指導の場合



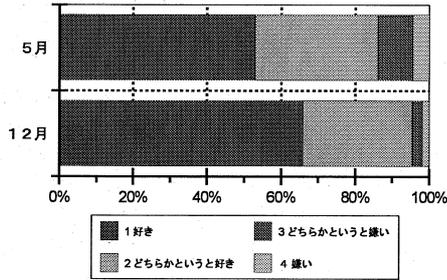
エ 少人数指導年間計画の作成

年度当初に、各学年の各単元ごとに指導時数と指導形態・指導方法まで考慮した計画を作成し、計画に沿った指導を行う。

(3) 研究の成果と課題
① 研究の成果と考察

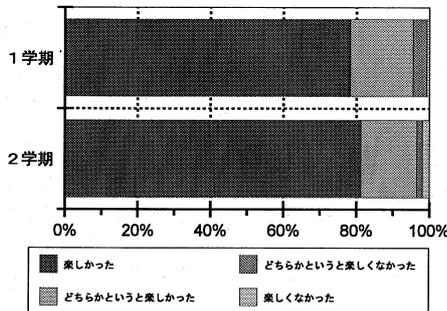
ア 児童の変容

(ア) 算数に対する児童の意識 (平成15年5月、12月実施)



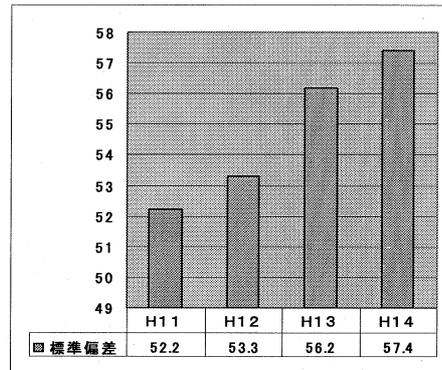
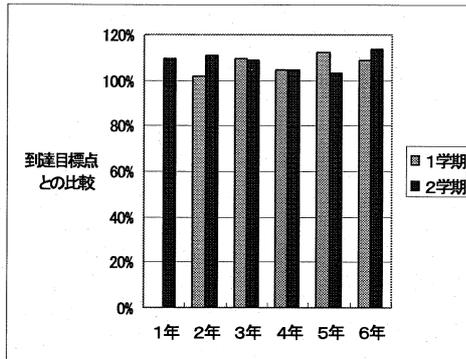
- 楽しいから。計算が好きだから。
- 難しい問題ができると楽しいから。
- 発表できるようになったから。
- 分かりやすく教えてくれるから。
- 生活に利用できるから。
- 最初は嫌いだったが、少人数になって好きになった。
- 計算が難しい。算数が苦手だから。
- 間違えたらいやだから。

(イ) 少人数指導に対する児童の意識 (平成15年7月、12月実施)

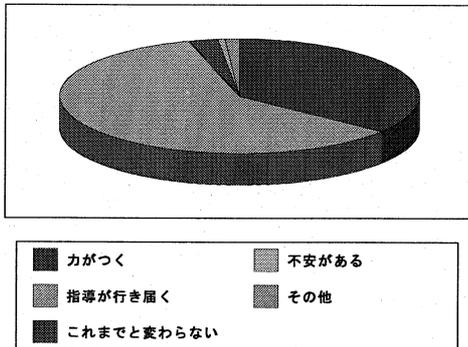


- 話も聞きやすい。静かで集中しやすい。
- 発表がやりやすいし、当たりやすい。
- コースを選べたので、自分のペースで学習を進められる。
- 一人一人に教えてくれるので分かりやすい。分からない時すぐ質問できる。
- 算数をもっと好きになった。
- 先生やコースをもっと増やして欲しい。
- コース分けを工夫して欲しい。

(ウ) 単元末テスト (平成15年度) 及び学力検査 (過去4年間) の結果



(エ) 少人数指導・習熟度別指導に対する保護者の意識 (平成15年度公開授業)



- 一人一人に目が行き届く。
- 子どもも意見や質問が言いやすいと思う。
- 教える時間にも余裕があると思う。
- 個別の理解度が確認できて、より均一な指導ができると思う。
- 個人のペースにあった指導ができる。
- 授業内容が理解できる子どもが増えるので良いと思うが、できる子の力がどんどん伸びてしまい、遅れている子どもの差が大きくなる気がする。
- 何回か参観してみないと分からない。

(オ) 成果の考察

- ・ 算数に対する児童の意識は「好き」「どちらかという好き」と答えた児童が1学期より9%ふえた。その理由として「発表できるようになったから」「分かるようになったから」が挙げられており、少人数指導との関連が見られる。
- ・ 少人数指導に対する児童の意識は「どちらかという楽しくなかった」と答えた児童が1学期より3%減り、肯定的に受け止めている児童が97%に達した。このことは、授業に主体的に取り組みやすい点、コース選択ができる点等の少人数指導のよさが受け入れられていると考えられる。
- ・ 単元末テストの結果は、市販テストの到達目標点を100とした場合の本校児童の学年平均点で比較したところ、全学年で100%を超えることができた。毎時間の評価を指導に生かしたことや、少人数指導で個に応じた対応ができたためだと考える。
- ・ 学力検査の結果は、平成13・14年度に大きな伸びを示している。本校では平成13年度から少人数指導(5、6年)が始まっており、その成果が表れた結果であると考えられる。

② 今後の課題

- ・ 児童の学習意欲をより高めていくためには、コース設定について児童の要望をつかみ、反映できる点を生かしていく必要がある。
- ・ 1時間かけて扱う「発展的な学習」「補充的な学習」の指導過程や学習内容を考えていく必要がある。
- ・ 少人数指導に対する理解を深めるために、保護者に対する授業公開や情報公開をさらに進め、意見を吸い上げて実践に反映させていく必要がある。
- ・ 一斉指導やTTによる指導が適当な場合と、少人数指導が適当な場合を検討し、指導形態・指導方法を臨機応変に考えていく必要がある。

(4) 研究成果の普及の方策

- ・ 研究発表会、公開授業
- ・ 研究紀要の全小・中学校へ配布
- ・ 管内研究主任会で学力向上フロンティアスクールの研究主任が研究の概要の説明等

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T、Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】
学年2学級または1学級を、3つのクラスに分け、習熟度別指導等に取り組んでいる。個に応じた指導のために、工夫された教材、指導方法等、職員のチームワークによる研究が推進されている。授業に取り組む子どもたちの姿が素晴らしい。